

## Zからの“秘められた”メッセージ〔前編〕 —トランプ大統領の登場による不確実な時代の到来と国際関係の行方—

旭 英 昭

### 目 次

#### （前編）

1. はじめに — ゼーリックの足跡をたどる
2. トランプ大統領の誕生と不確実な時代の到来
3. “リベラルな国際秩序”の後に来るもの  
— グランド・ゼロの世界か、無秩序か（？）

#### （後編）

4. アジアの未来：20世紀のジョン・ヘイと21世紀のゼーリックの夢
5. 経済と安全保障 — 米外交の伝統とその変遷
6. 日本への期待、その役割と課題

“アメリカ・ファースト”を掲げるトランプ米国大統領の登場で世界は不確実な時代に入ったといわれる。これに対して、過去70年間平和と繁栄をもたらした米国主導の“リベラルな国際秩序”に参与してきたゼーリックは、それは引き続き米国のみならず国際社会の双方にとって必要であると論じる。他方、中国の台頭によりパワーシフトが進むなかで、リーダー不在を意味する“ポスト・アメリカ”は国際的な無秩序が支配した1930年代の再来に通じるとの警鐘が聞こえる。

### 1. はじめに — ゼーリックの足跡をたどる

#### （多国間主義と超現実主義）

ロバート・B・ゼーリック（2017年5月、ライアンズ・バーンスタイン（AB）会長に就任）が数年ぶりに来日した。彼は、本（17）年1月に発足したトランプ米国内閣から、共和党主流の

外交政策を支える専門家集団の頭目としてブラックリスト化して忌み嫌われている人物である。しかし、彼にはそのことに対して意に介する風はない。なぜなら、彼自身、戦後70年間、歴代の共和、民主党両政権によって超党派的に支持され、形成・維持されてきた、ジョン・アイケンベリーが命名する“（米国主導の）リベラルな国際秩序（Liberal International Order: LIO）（注1）”の信奉者



旭 英昭（あさひ ひであき）

日本国際問題研究所客員研究員。前東京大学大学院総合文化研究科教授。1970年、東京大学法学部卒業。71年、外務省入省の後、内閣審議官、初代在東ティモール大使を経て、2006年退官。72-74年まで米国ペンシルヴァニア州スワースモア大学に留学。著作に『平和構築論を再構築する 増補改訂』（日本評論社、2015）の他、寄稿論文に、“State, Society, and Social Capital,” *Journal of Human Security Studies*, Autumn 2016; “A Successful Model or an Uneasy Future for Peacebuilding,” *Asian Journal of Peacebuilding*, May 2017等。